

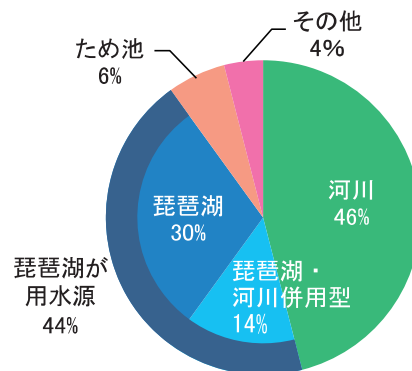
滋賀県農業の特徴

琵琶湖が用水源

農地の約4割は琵琶湖を用水源としています。

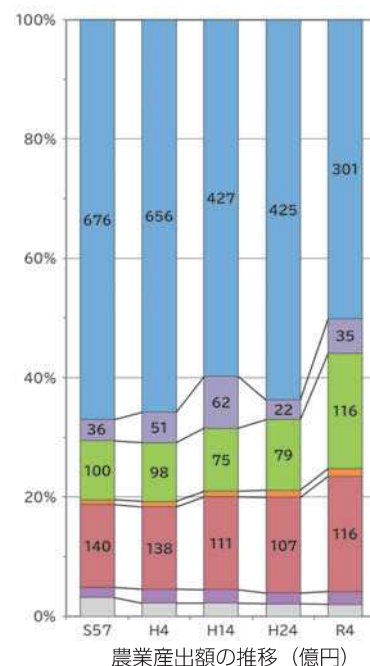
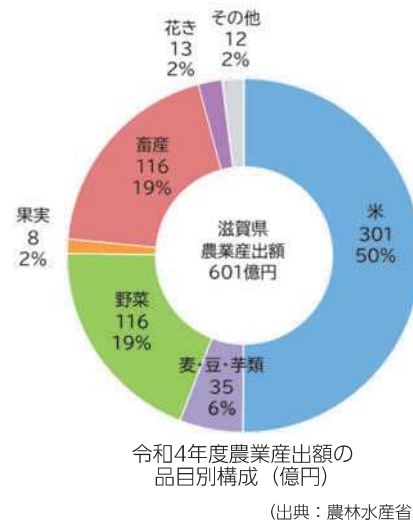
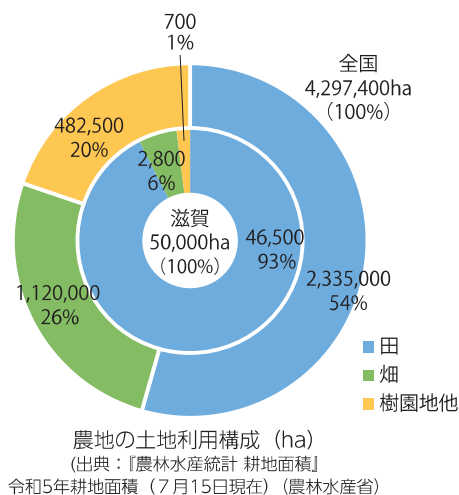
通常、河川水で稲作を行うには、水田面積の10～13倍の流域面積が必要とされていますが、滋賀県では全水田面積のおよそ6倍の流域面積しかありません。

そこで、さまざまな水源開発が行われ、特に機械化によって琵琶湖からの揚水によるかんがいが進展しました。



近江は米どころ

琵琶湖を抱き、四方を鈴鹿や比良などの山々に囲まれた滋賀県は、温かな気候と豊かな土壌に恵まれ、古くから水田開発が進みました。現在でも近江米の産地として水田農業が盛んに行われており、特に農地の水田率は約93%（令和5年）と、全国で2位です。

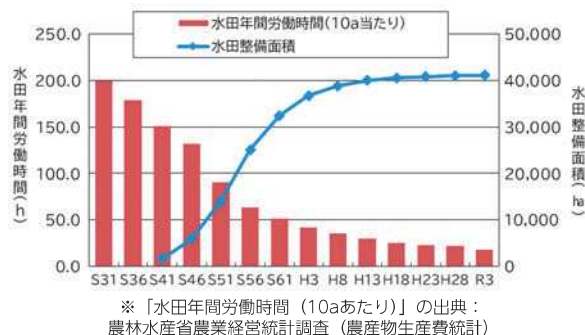
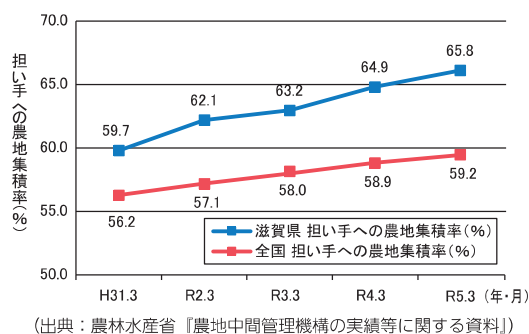


農業産出額のうち50%（令和4年）を米が占めていますが、近年は野菜などの園芸作物の比率が高くなっています。

生産性の高い農業

昭和47年から平成8年まで行われた琵琶湖総合開発により、ほ場整備は大きく進展しました。

それにより、担い手への農地の集積や大型農業機械の導入が進み、水田労働時間は大きく短縮され、生産性の高い農業を実現しています。



滋賀県の農業用水水源別依存状況

